

説苑



道路費の生れるまで

K · A 生

◇
來年度の豫算はドウダラウか。道路費の成り行きはドウだ。これは大藏省の概算査定が、段々と終局に近づく頃かに豫想されるに連れて、地方廳の人々や、直接關心を持つて居る地方人士が故つ質問の言葉である。

何しろ今年の八月に大藏省へ概算の要求を提出し、間もなく一應の事務的説明が終つてからは、十月末まで九二ヶ月の間全く音無しの無氣味な沈黙を續けて居る丈けに、一層其の切實さが迫つて來る。

夫れが十月の下旬になると、期しては居るものゝ何處からともなく、「大藏省は間もなく概算を内示するソウだ」とか「イヤ十一月始めだらう」と云ふやうな風聞が湧いて來る。尤も此の行き方は殆んど例年の行事で、別段新しい譯でもなく、固より今度も斯様な按梅であつた。

◇
十月も殆んど終る頃都下の新聞は一齊に、大藏省は十一月早々から豫算省議を開催すると云ふことゝ、來年度豫算は事變處理を樞軸として編成するのであるが、各省の新規

要求がペラ棒に膨大で、また時局を認識せずして、徒らに便乗する要求も可成りあるので、大藏當局は、之等に對しては嚮に閣議の決定に基く重點主義を堅持して、大英斷を以て全面的に斧鉞を加ふべく強硬な決意を持つて居る。と云ふやうな記事を掲げて居つた。

マサカ各省が閣議決定に副はぬ様な政策を豫算に要求する譯もあるまいし、また假りにあつたとしても殊更らソナ事を發表する必要もなく、堂々所信に従ひ削減すれば良い丈けの事だらうが、兎に角こんな意味合のことが載つて居つた。

◇

こんな記事の出現と相前後して、地方からは頻きりと陳情團が押し掛けて来る。中には氣の早いものになると、電報や電話で大藏省の模様を問ひ合せて来るものがあると云ふ具合で、之が爲何となく淡い興奮と慌しい感じと、そして又後盾の心強さを省の外に漂はせて来る。

土木局の人々はと見ると、戦はこれからだと言ふ風に悠

然たる構へである。殊に道路豫算の本山、道路課や第二技術課を覗くと、泰然として閑日月在りと云ふ有様で、訪客をして、戦備整へりの感を深ふせしめる。

◇

ことの順序として茲で一才豫算が帝國議會へ提出されるに至る迄の過程を探つて見やう。

八月に各省から大藏省へ豫算要求。同月中に個々の要求に付て大藏省へ説明する。道路關係ならば、土木局の道路課長、第二技術課長、事務官、技師が其の衝に當る。

十一月初旬。第一回の豫算を示内。内示は各省の會計課長を主計局へ招致して行はれる。同時に不服ならば何日迄に復活要求をせよと云ふ様な宣告である。

次いで會計課長は、各課の豫算擔當事務官を招致して主計局案を説述する。各課の事務官は急いで之を各課へ持ち歸つて来る。

間もなく復活の要求案が局議へ、續いて省議へと掛けられる。時間は大抵午後から翌日に亘ることが屢々ある。

かくして復活要求の計數を檢討して、大藏省へ提出する段取りとなるのである。

◇
コンナ事を期間としては長くて二十日、短かければ十日間の内に、少いのは去年で五回、一昨年は七回も繰り返して手打ちとなつたのである。之が豫算獲得の折衝圖である。ツマラヌ事の様だが、回數を重ねる毎に双方の誠意が歩み寄つて、遂に終幕となるのである。此の間には主管局長や會計課長などは、大藏省へ足が棒になる程日参せられることがある。

斯様なことを繰り返して、豫算概算が閣議へ提出せられるのが十一月末か十二月の初旬である。

閣議の決定が済むと政府の豫算案として、一月の議會再開劈頭衆議院に提案される順序である。

◇
是から愈々本論へ戻らう。

第一回の豫算内示は十一月十三日正午頃であつた。これ

に依ると、特殊國道(所謂軍事國道)改良費二十五萬圓、府縣道改良費補助百九十二萬餘圓、國道改良事業費八十三萬七千餘圓(單年度の直轄國道改良事業)、國道改良繼續費十萬圓。これは新規に十二本の要求に對し、一本丈け認め、其の初年度分と云ふ譯である。道路鋪裝事業費百萬圓、これは直轄で國道を鋪裝する經費である。道路鋪裝補助費百萬圓、之れは府縣道の鋪裝費に對する補助である。此の鋪裝費は長期建設に即應した新政策である。また既定繼續費に屬する國道改良繼續費が、六百二十二萬八千圓、其他、沖繩及大島振興の道路改良費等も幾分認められて居る。之等の總額は千二百十萬四千四百三十圓である。

◇
此の第一回の査定に對する輿論の動向はドウであつたかを見るに、十一月十五日發行の東京朝日新聞は、民政黨は十四日の幹部會に於て十五年度一般會計豫算の中、特に内務省所管土木費の大削減に關し意見交換の結果、右は地方の實情殊に旱害對策上から見ても、甚だ面白からざるを

以て、十六日の政務調査會に於て重ねて協議の上委員を選び内務、大藏兩大臣に對して強硬なる復活の進言を爲すことに一致した。と記載し、十七日の讀賣新聞は、政友會正統派の岡田幹事長、牧野(良)、鈴木、松山、田中(好)の五氏は十六日午後三時半首相官邸に阿部首相を訪ひ、明年度豫算新規要求費中銃後施設經費の優待特に内務省土木費の重要性を強調し土木經費、旱害對策の二點につき黨の態度を闡明し善處を要望、引續き同四時半青木藏相を訪問、同様藏相の善處を促したがこれに對し阿部首相、青木藏相とも考慮を約するところがあつた。なほこの問題については各派とも重大視し十七日午前十時より衆議院議長室において衆議院各派の聯合對策委員會を開き内務次官、内務省地方、土木兩局長、農林省農務局長、厚生省社會局長、文部省普通學務局長より、政府の方針と旱害地方の實情について説明を聴取しその結果各派の意向を取纏めて政府に要望進言する。と掲げて居る。其の他の新聞も大方同様な步調であつた。

第二回の内示は、二十四日午後十時半であつた。復活要求をしてから丁度十日目である。

これに依ると、府縣道改良費三十七萬三千圓、國道改良事業費二十二萬九千餘圓、國道改良繼續費新規一本。初年度分十萬圓、道路鋪裝が、事業費、補助費とも各三十萬圓宛更に認められた。復活の總額は百四十四萬五千百十五圓である。

此の結果も内務省の主張とは遙かに隔りのあるものである。翌二十五日直ちに復活要求が爲され、其の説明も同日及翌二十六日の日曜にかけて行はれた。

道路改良會の水野會長が、會を代表して行動を開始せられたのも確か此の頃からであらう。

◇ 第三回の内示は二十九日午後三時であつた。今度は府縣道改良費補助六十五萬二千圓、國道改良事業費五十一萬圓、國道改良繼續事業費一本十萬圓が認められ、道路鋪裝は、

事業費も補助費も一文も増して來なかつた。また重要道路整備調査費が、二萬五千圓認められて來た。此の費目は十五年度の新規軸であつて、日滿支の交通體制の確立に順應して、國內幹線道網路を、再検討せんとする企劃に要する經費である。

此の復活の總額は百二十六萬三千圓である。「コンナ査定ではまだナカ／＼軌道に乗りませんナ」とは、同夜復活要求の局議の席上漏らされた言葉であつた。そして三十日第三回目の復活要求が爲された。

◇ 第四回の内示は十二月二日午前二時半であつた。此の時は府縣道改良費補助三十萬圓、國道改良事業費二十萬圓、國道改良繼續事業費一本十萬圓、道路舗裝事業費及補助費とも各二十萬圓宛に、重要道路整備調査費に二萬五千圓等を認めて來たので、今度の復活は總額百五萬七千七百四十六圓であつた。

之に對し同日更に第四回目の復活要求が爲された。此の

邊にまで來ると、復活要求も、其の査定も段々と急速度になつて來るし、夫れ文け皆んなの緊張も、昂奮も次第に濃度化して來る。

◇ 第五回の内示は翌三日午前五時であつた。今度は、府縣道改良費補助二十萬圓、國道改良事業費三十萬圓、國道改良繼續事業費一本十萬圓、道路舗裝費が、事業費及補助費とも各五十萬圓宛を認めて來たので、其の復活總額は百六十五萬四千圓と云ふことになつた。

之に對し更らに同日中に引續き第五回目の復活要求が行はれた。が路政當局には最早や前途の見透しがついて來たらしい。

◇ 愈々最終回の内示である第六回の内示は、五日午後八時に行はれた。今度は府縣道改良費補助に十萬圓、國道改良事業費四十萬圓、國道改良繼續事業費に一本六萬圓が認められて來た。之等の總額は五十八萬七千六百圓である。

これで前後二十二日間。さしもの火華を散らした豫算の折衝も休戦となり、颱風は一過した譯である。

今少しく園の跡を振り返つて見やう。

◇

内務省が道路關係に於て、十五年度に新政策として要求したものは上述の如く、道路舗装と重要道路整備調査費とである。また一般の道路改良費即ち、府縣道改良費補助や國道改良費や、國道改良繼續費に付ても、從來の規模が極めて少額であり、土木會議の議決を経た第二次道路改良計畫に随分遠ざかる豫算であるだけに、之はまた銃後政策として何としても其の擴充を期せねばならぬものであつた。然るに此の道路改良費と、道路舗装費とは道路整備の表裏を爲すものであるから、兩者が併進して行はれて、初めて道路改良の完遂を齎すのであつて、其の何れに偏しても不可ぬのである。

◇

勿論内務省としては、道路舗装費は現下の時局が要求し

て居るものであるだけに、當然之れは從來の道路改良費の外に新費目として餘分に相當額を認めて貰はねばならぬのであると爲し、財政當局としては、財政計畫の上から、夫れは道路改良費の中に包含さるべきであると爲して居つた様である。従つて何回もの復活要求を爲すに當つても其の扱へ方に付、改良重點主義で行くべきか、舗装萬能で進むべきか。固より實際に於ては、兩者の調和を圖りつゝ復活を期せられたのではあるが、茲に路政當局としての大きな苦心が在つた譯であらうし、またいろ／＼の樂屋噺もあるが、茲には割愛して置く。

◇

然るに此の結果は、道路改良費は略々本年度額を承認せられ、夫れに新規の道路舗装費が、國道事業及府縣補助費とも各二百萬圓宛を加へられたのであつて、是等の事業費は八百萬圓に達すると云ふに至つては、道路政策としては正に劃期的な大業である。殊に右舗装費は三ヶ年計畫の全部を認めて、其の初年度分としての金額であることに鑑み

るときは、路政界近來の大快打である。

◇
國道改良繼續費が新に五本、初年度五十六萬圓、其の事業費總額千九百六十萬圓を加へられたことも、特筆に値ひするであらう。此の中には、東京大阪間國道第一期計畫や、東京新潟間の三國峠の改良等、總て時局に即應する箇所が認めれて居るのである。重要道路整備調査費も十五年度分としては、例令金額は僅少なりとは云ひ、之亦三ヶ年の計畫を全部承認せられたのであるから、内務當局の所期した新政策は茲に總てが成立した譯である。

更にまた道路關係豫算總額が、十四年度の千二百萬圓に對し、十五年度は千八百萬圓に飛躍したことも、路政の前途に輝やかしき光明を與へたものであつて慶祝に堪えない次第である。

茲に路政當局の御健闘に對して深甚なる感謝の意を表するものである。(昭和一四・一二・一〇記)

冬十二句

田中野狐禪

嶺々の雪日毎に晴れつ大根干す
野鼠を攫み去る鶯よ大根引
峽の村離れて風の枯野かな
丘を遠りて澱む流れや冬野晴
溫泉脈噴いて枯野のポーリング
冬雨や石並べたる家根高低
自動車群るゝ芝居の閉場を寒の雨
米鹽の足りて酒あり冬籠
雪よけの簀垣ものめき冬構
良き妻を得て慾もなし冬籠
襟巻や童顔にして長き髯
襟巻や袂に小錢手まさぐり